

【全天候型こどもの遊び場 ニーズ調査】 (総括)

印西市子育て支援課子ども政策係

はじめに

令和7年7月から9月にかけて実施した【全天候型こどもの遊び場 ニーズ調査】アンケート
未就学児保護者（134件）、就学児保護者（1,348件）、小学生（3,763件）を対象
を踏まえて全天候型こどもの遊び場について総括を行う。

総括（１）

【1. 全天候型こどもの遊び場に対する高いニーズ】

未就学児保護者、就学児保護者、小学生のいずれの調査においても、全天候型こどもの遊び場に対する高い期待が示された。近年の猛暑や豪雨等により屋外遊びが制限されることが共通課題となっており、天候に左右されず安全に遊べる場所が強く求められている。また、小学生アンケートでは約8割が利用意向を示しており、市民ニーズは非常に高いものと考えられる。

【2. 現在の遊び環境における課題】

調査結果から、以下の課題が共通して確認された。

- ・天候に左右される遊び環境
- ・室内で安心して遊べる場所の不足
- ・年齢に応じた遊び場の不足
- ・安全面への不安
- ・小学生や高学年児童が十分に体を動かせる施設の不足

特に小学生向けの施設不足を指摘する意見が多く見られた。

総括（２）

【3. 求められる施設像】

希望設備として、大型すべり台、ロープネット遊具、トランポリン、アスレチック、ボール遊びなど、体を大きく動かせる設備への要望が最も高かった。一方で、デジタル遊具、工作スペース、読書スペース、ボードゲーム、プログラミング体験などの知的活動へのニーズも確認された。このことから、市民が求めている施設は単なる遊具施設ではなく、「運動・学び・交流・休憩」を兼ね備えた複合型施設であることが明らかとなった。

【4. 年齢別ゾーニングの必要性】

未就学児には安全性を重視した乳幼児向け空間、小学生には活発に体を動かせる空間が求められている。また、兄弟姉妹が同じ施設内で利用できる環境や、高学年児童も楽しめる設備への要望も多かった。そのため、乳幼児ゾーン、低学年ゾーン、高学年ゾーン、共用交流エリアなどの年齢に応じたゾーニングが重要である。

総括（3）

【5. 利用頻度と期待される役割】

保護者アンケートでは「週1回以上」「月2～3回」の利用希望が多く、日常的な利用施設として期待されていることが分かった。利用時間帯は午前から夕方まで幅広く需要があり、特に午後時間帯への利用希望が高い。全天候型こどもの遊び場は、特別なレジャー施設ではなく、市民の日常生活を支える地域インフラとしての役割が期待されている。

【6. 利用料金と運営への意向】

料金については、無料利用を希望する層と、混雑緩和につながるのであれば有料でも利用したいとする層の双方が存在した。有料の場合の許容額としては、1回300～500円程度が最も多かった。また、市民料金の設定、市外利用者との差別化、予約制、時間入替制、利用人数制限などの混雑対策を求める意見も多く見られた。

総括（４）

【総合結論】

今回の調査では、未就学児保護者、就学児保護者、小学生のすべての層から全天候型こどもの遊び場に対する高いニーズが確認された。

施設には、天候に左右されず安全に遊べる環境に加え、運動機能、学びの要素、交流機能、保護者の滞在機能を備えた複合型施設が求められている。

また、乳幼児から小学生高学年までが利用できるゾーニングや、混雑を抑える運営方式、利用しやすい料金体系も重要な検討事項である。

全天候型こどもの遊び場は、こどもの健全な成長を支えるだけでなく、保護者の負担軽減や地域コミュニティの形成にも寄与することが期待される重要な子育て支援施設である。